

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR2 階
園名	ポピンズナーサリースクール赤坂

## 1 活動のテーマ

### <テーマ>

あそびごころからひらめきいっぱい世界を見つけるアート  
(探究心とひらめきを広げてアートを楽しむ)

### <テーマの設定理由>

日々の生活の中で子どもたちは色や形、自然物など様々なものに興味を示している。アート活動を通して素材に触れたり製作を楽しんだりする中で、子ども一人ひとりの発想や気づきを大切に、自由に表現にする楽しさを感じてほしいと考え、本テーマを設定した。

## 2 活動スケジュール

- ① 2025/4月6日(水) テーマ【はるをさかせる】  
ウクライナのイースター・エッグ「ピンサキ」を制作
- ② 2025年5月15日(水) テーマ【いきものにてあう】  
古代エジプトの太陽神ケプリの象徴「スカラベ」をモチーフに制作
- ③ 2025年6月4日(水) テーマ【ひとをかたどる】  
パブロ・ピカソの作品を鑑賞し、ピカソの目線となって人を制作
- ④ 2025年7月16日(水) テーマ【なつのすいめん、みずのゆらぎ】  
デイヴィット・ホックニーのプールの作品からインスピレーションを得て制作
- ⑤ 2025年9月17日(水) テーマ【くらしをみつめる】  
アポリジナルアートを鑑賞し制作
- ⑥ 2025年11月19日(水) テーマ【ひろってつくる】  
イギリスの植物学者アナ・アトキンスの作品を鑑賞し制作
- ⑦ 2026年1月21日(水) テーマ【あらたなし】  
葛飾北斎の富士山を鑑賞し制作
- ⑧ 2026年2月24日(火) テーマ【おもいをつなぐ】  
テキスタイルアーティスト、シーラ・ヒックスの作品を鑑賞し制作

### 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ① たまご型の置物、アクリル絵の具、筆、スポンジたんぼ、スモック、養生、お皿
- ② キラキラの絵具、パレット、むしの形の厚紙、紙皿、筆、スモック、養生、セロハンテープ
- ③ カラー粘土、ピカソの目、鼻、口のカード、養生、スモック、粘土ベラ、粘土版
- ④ クレヨン、絵具、画用紙、人や浮き輪のコラージュ用画用紙、太い筆、スモック、養生、ボンド
- ⑤ 動物の厚紙、スポンジたんぼ、綿棒、目玉シール、絵具、養生、スモック、皿
- ⑥ 絵具、ローラー、ジェル版、紙、葉っぱや草花、ごみ袋、ウェットティッシュ、養生、スモック
- ⑦ パレットナイフ、スポンジベラ、色画用紙、絵具、養生、スモック
- ⑧ 糸の張られたキャンパス、両面テープが貼られたキャンパス、いろんな色の糸と布、お皿

【環境設定】子どもが自分で素材を選びながら自由に試すことができるよう、手に取りやすい場所に素材を配置。机や制作スペースを広く確保し、子ども同士が互いの作品をみながら活動できる環境を整えた。

### 4 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ① 導入でイースターのお話、ウクライナの伝統工芸のピンサキを鑑賞。細かいテープが貼られた卵形に、筆やスポンジたんぼを使って春の色を着彩する。
- ② 導入で古代エジプトの太陽神ケプリの象徴となった「スカベラ」を鑑賞。他にもどんな虫がいるのか探す。むしの形の厚紙に、キラキラ絵具を塗ってアクセサリーを作る。0、1歳児はクラフトの紙皿をくり抜いてエジプトの首飾りに仕上げる。
- ③ 導入でパブロ・ピカソの作品を鑑賞。粘土を使って人をつくる。最後に目、鼻、口をつける。
- ④ 導入でデイビット・ホックニーのプールの作品を鑑賞。夏の水面の様子、水の揺らぎなど観察。画用紙に白のクレヨンを使い、水面の様子を描く。そして水彩絵の具を使って色を塗っていく。泳いでいる人や浮き輪を張り仕上げる。
- ⑤ 導入でアボリジナルアートを鑑賞。オーストラリアの先住民が何を伝えるために絵を残したのかお話しする。オーストラリアの動物も鑑賞。オーストラリアの動物を形どった厚紙に、土色をメインにドットペインティングに挑戦。持ち手をつけてペーパーサートに仕上げる。

⑥お散歩の時に集めた葉っぱや草花を準備。導入でイギリスの植物学者アナ・アトキンスの作品を鑑賞。ジェルプリントで植物の形を写し取りする。ローラーで絵具を伸ばす。

⑦導入で葛飾北斎の富士山を鑑賞。色画用紙をコラージュした富士山にパレットナイフで着彩し、雪を降らせる。

⑧導入でテキスタイルアーティスト、シーラ・ヒックスの作品を鑑賞。柔らかい素材から力強い作品が生まれることを感じ、素材の面白さに触れる。2歳児はキャンパスに張られた糸に、色々な色の毛糸や布を通す。0、1歳児はキャンパスに貼られたテープに細かくきられた糸や布を貼る。

☆芸術作品を鑑賞しながら制作活動を行った。絵の具や粘土、自然素材、布や糸など様々な素材に触れ、色や形、質感の違いを感じながら子ども一人ひとりが自分なりに表現することを楽しんでいた。また作品の鑑賞を通して「きれい」「これなに？」といった興味生まれ、製作活動へとつながる様子がみられた。

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「これ〇〇ちゃんの好きな色」「まだやりたい」「これどうなるの？」などと、話しながら素材に触れ、製作活動を楽しんでいた。

・友だちの作品に興味を示し、同じ素材を使ってみたり互いの製作を見合ったりする姿があった。

・素材に触れることをためらう子もいたため、無理に促さず友だちの活動を見守れるようにし、興味が向いたタイミングで関わられるようにした。

・完成した作品を「できた」「みて、みて」と保育者や友だちに見せる姿がみられ、自分の表現したものを伝えようとする様子がみられた。

・保育者は子どもの気づきや発見に共感しながら声をかけ、一人ひとりの表現を大切に受け止めた。



## 5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

素材や表現方法を複数用意することで、子ども一人ひとりが自分なりの方法で製作に関わることができていた。また、素材に触れることをためらう子どももいるため、無理に活動を促すのではなく、子どもの気持ちに寄り添いながら見守ることで、安心して活動に参加できることにつながると感じた。今後も子ども興味や関心に応じた環境を整えながら、表現活動を楽しめるよう活かしていきたい。